

【2017年度 国内機関長賞】JICA北陸支部長賞

ワールド・プレイ

富山県射水市立射北中学校 二年 アヤアズ アシア

「ねえママ小学校ってどんなことするの?」私は小学校を楽しみにたくさんの思いを胸にめぐらせ入学式を待っていた。しかし、そんな思いでいられたのはほんの束の間だった。想像とは全く違う世界が、私を待っていた。

ついにやってきた入学式、私が新しいランドセルを背負い教室に入って来たとき視線が集められた。そして、クラスのどこかから聞こえて来たのはこんな言葉だった。

「え～外人。死ねよ外人なんか。」

私は振り向いて見たが何もできなかつた。最初は、悪口を言うのは数名だったが時間が経つにつれてクラス全員と言っても過言ではないほど私をいじめるようになった。私は、先生にその状況を何度も話したが日本語が上手に話せなかつたため自分の気持ちを伝えるのに大変苦労した。先生は、生徒を呼び出したが生徒は何もしていないと、うそを付くばかり。逆に私が先生に疑われることもあった。なぜなら、成績でも態度でも良い子が、「死ね。消える。どっか行けばいいじゃん。」と本当に言うのかと思ってしまうからである。相手がしていないと断言すればさらに…。私が毎日のようにされたことを先生に言うようになると先生は、ため息を付いて「アジアさん。うそを付くのは良くないの。」と言うようになった。私は下を向いてうんとうなずくくらいのことしかできなかつた。私はそれ以上日本語で説明することができず、しようとも思わなかつた。唯一分かってくれると思っていた人にさえそう言われると希望も望みも無くなり裏切られた気がした。見た人がいないか先生は聞くが、先生は聞くが、もちろん誰も答えるはずがない。単なるチームプレイだ。

そんなある日、同じクラスの女の子が言う。

「先生違います。私、その時見ていました。」

彼女の声はクラスに響いて一瞬にしてクラスは沈黙し賛成する声が続いて上がった。私は、とてつもなくうれしかった。私にも味方がいたのだと思い知らされた瞬間だった。今でも思い出せばあの声が蘇ってくる。

これは、学校に限らず国同士の関係でも言えないだろうか。ロシア・イスラエル・アメリカなどの国々は宗教差別で大人や子供関係なく、たくさんの命を奪っている。地球の一人として、いずれは無くなり同じ土地に眠らなくてはいけない人間として同じなのになぜだろう。だが、誰も止めない。見て見ぬ振りをしている。あのクラスと同様に。

しかし、一つの国でもそれらの国に対し止めてみるはどうだろう。きっと他国も反応し始め自然と「止めることのできる社会」が築かれ平和な社会へつながるのではないか。そしていつか世界中にその思いが伝わるのでは。

人が間違った道へ進んでいるのなら止めること。止める方法は色々あるが必ず見捨てないこと。助けてあげること。自分の苦しみを他の人にさせないためにも、それ以上に苦しむ人にもそれがチッポケな私に出来ること。



2017年度 中学生の部《佳作》

富山県射水市立大門中学校	木倉 里紗子 さん
石川県かほく市立高松中学校	西田 愛美 さん
福井県立高志中学校	橋本 研人 さん
福井県福井市進明中学校	中村 寛大 さん

2017年度 高校生の部《佳作》

石川県金沢大学人間社会学域 学校教育学類附属高等学校	崎山 冬美花 さん
福井県立武生東高等学校	岡山 こはる さん